

巻頭言

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、農地バンク事業の推進に御協力をいただきまして誠にありがとうございます。

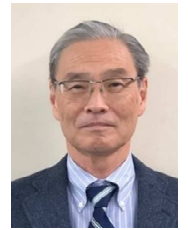
令和2度の農地バンク事業による担い手への貸付面積は、現在認可申請中のもの等も含めると、今年3月末の見込みでは1,301ヘクタールです。

平成26年に事業が始まって7年目の今年度、達成は難しいと言われてきた目標面積1,200ヘクタールを超えることができそうです。皆様に御礼を申し上げます。

農業者の高齢化が急速に進む中、耕作ができなくなって耕作放棄地になる前に、担い手に農地を集積、集約化して、耕作してもらうことが急務です。

すでに各地で令和3年度の農地バンク事業の実施に向けた話し合いや契約会が始まっています。茶園では基盤整備の実施と併せた取組が進んでいます。

本年も関係の皆様を御協力をよろしくお願いいたします。



（静岡県農業振興公社 理事長 大谷徳生）

使える農地をえるうちに使える人につなごう

謹んで新年のお喜びを申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年3月以降いくつかの国で食料の輸出規制がされ、国内の食料生産力の確保に関心が高まりました。感染症もそうですが、食料においてもリスク管理の大切さを多くの方が改めて感じたことでしょう。

そうした意味でも、将来の地域の農業と農地を守るために、地域総意で設計図を描く「人・農地プランの実質化」が重要で、コロナ禍で個別巡回や座談会などの話し合い活動が制限される中、各地で知恵を絞り取り組まれています。

実質化の次はその実行が求められます。「使える農地をえるうちに使える人になく」を合言葉に、認定就農者、農業委員や推進委員、土地改良区、関係機関など皆の力で、担い手の育成や確保、農地の集積・集約化、担い手に使い勝手のよい生産基盤の整備等を進めていきましょう。農業会議は地域における農業委員会活動の充実・発展を支援してまいります。



（静岡県農業会議 会長 黒田淳之助）

実質化した人・農地プランに基づいた担い手への農地の集積・集約化を

新年明けましておめでとうございます。

昨年より、新型コロナウイルス感染防止対策に配慮しつつ、各市町において「人・農地プランの実質化」に向けた取組が本格的に進められています。地域の中で人・農地プランについて話し合う中で、将来離農する意向がある耕作者の農地を、農地バンク事業を活用して担い手に集積、集約化していく方針等が、地区ごとに工夫を重ね作成されているところです。

農地がプランに沿って着実に担い手に受け継がれることで、農地の効率的かつ高度な利用が図られるとともに、農地の荒廃を防ぐことも可能となります。

このため、プラン作成後は、担い手への農地の集積・集約化をいかに具体的に進めていくかが、地域農業を守る鍵となります。

県では引き続き、人・農地プランを最大限に活かして担い手への農地の集積・集約化を推進してまいりますので、皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げます。



（静岡県経済産業部 農業ビジネス課長 藤田博之）

農地バンク事業の貸付面積が大きく伸びています

令和2年12月末現在の農地バンク事業による農地の貸付面積は昨年の実績を超えた882.3haで、目標面積1,200haの73.5%です。

また、現在手続き中で、令和3年3月までに契約が成立する見込み等を含めた面積は、約1,301haで、目標の1,200haを上回ることが確実となる状況となってきました。

市町別貸付面積

(単位:ha)

市町名	R元	R2	市町名	R元	R2	市町名	R元	R2
下田市	1.8	0.3	裾野市	5.3	5.7	川根本町	5.3	2.7
東伊豆町	2.4	4.5	清水町	-		牧之原市	38.6	94.0
河津町		0.2	長泉町	2.3	2.7	吉田町	11.6	2.6
南伊豆町			御殿場市	22.9	34.4	志太榛原地域	146.8	199.8
松崎町	0.4	1.4	小山町	3.9	24.5	御前崎市	10.2	27.9
西伊豆町			東部地域	126.9	142.5	菊川市	15.3	7.4
賀茂地域	4.6	6.4	富士宮市	66.6	71.1	掛川市	29.3	71.8
熱海市	0.6	0.2	富士市	40.8	123.9	磐田市	37.6	121.7
伊東市	0.6	1.9	富土地域	107.5	195.0	袋井市	19.3	1.6
三島市	21.3	13.9	静岡市	55.0	25.8	森町	13.4	2.5
函南町	8.6	4.7	中部地域	55.0	25.8	中遠地域	125.1	232.9
伊豆市	7.3	0.1	島田市	10.6	19.2	浜松市	40.1	70.7
伊豆の国市	8.5	3.0	焼津市	49.8	51.8	湖西市	4.0	9.2
沼津市	45.7	51.4	藤枝市	30.8	29.5	西部地域	44.1	79.9
* R2は12月末現在、ラウンドにより合計値は一致しない						県計	609.9	882.3

円滑化事業から農地バンク事業への切替が進んでいます

令和2年4月に円滑化事業（農地利用集積円滑化事業）が、農地バンク事業（農地中間管理事業）と統合されました。水田を中心に円滑化事業を進めてきた遠州中央農協では県内一の面積を保有しており、特に磐田市内は約800haと多いことから、磐田市とともに効率的かつ円滑に農地バンク事業への切替が進むよう努めています。

切替に当たっては農協、磐田市、農林事務所、農業振興公社の4者で定期的に打合せを行っており、満期を迎える農地について地区ごとに3、4年分をまとめて切り替えることとしました。2月に向笠地区、3月に磐田西南地区、8月に豊岡地区、9月に福田地区において地権者を対象とした契約会（切替手続き）を開催してきました。

このうち豊岡地区では、6月に担い手への説明会を開催し、8月には5日間にわたり地権者330人、75haを対象とした契約会を開催しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策にも配慮し、地区の農業委員や農地利用最適化推進委員にも業務に協力していただきました。



契約会：人と人の間隔を確保するとともにスタッフを増やして密を回避

農地バンク事業を活用した農地整備が進められています

静岡市の東豊田池田地区では、農地バンク事業を活用している農地で、農業者の申請・同意・費用負担によらず区画整理等を行う農地中間管理機構関連農地整備事業に取り組んでいます。

令和2年3月に地権者93名からなる「池田地区農地基盤整備推進協議会」を設立、13.3ヘクタールの茶園の集積・集約化と基盤整備を一体的に行います。

令和2年度に外周測量・地形測量に着手し、令和3年度からは、工事のための実施設計と換地原案の作成を進めます。令和4年度から工事着手し、令和7年度の完成を目指しています。事業実施により茶園の生産性・収益性の向上が期待されます。

また、静岡市清水区庵原では、令和元年度より水利施設等保全高度化事業（旧畑総事業）池ノ沢地区を実施しています。

ここでは、樹園地10.9ヘクタールの区画整理を行い、担い手への農地の集積・集約化を推進します。

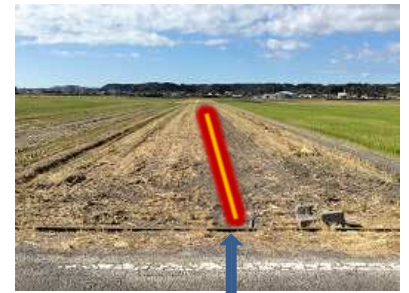


説明会の様子

「農地耕作条件改善事業」を活用した水田の排水性改善への取り組み

J Aハイナン管内は、水稻の裏作としてのレタス栽培が盛んで、県内有数の産地を形成しています。市場評価も高く、産地規模の拡大が望まれています。水田の排水不良が要因で作付面積の拡大が進まない状況が続いていました。そこで、J Aが実施主体となり平成27年度から「農地耕作条件改善事業」を活用して、水田の排水性改善対策に取り組み、6年間で合計55haの水田で暗渠を設置しました。

J Aが本事業の実施主体となっているのは、全国でもJ Aハイナンのみであり、さらに独自に10a当たり3万円を助成するなど、産地強化に取り組む積極姿勢が注目されます。



この部分に暗渠を設置

「静岡県農地利用最適化推進活動表彰」の受賞者が決定しました

農地利用の最適化を推進するため、耕作放棄地の再生活動及び農地集積・集約化の推進活動に取り組む者を表彰する令和2年度静岡県農地利用最適化推進活動表彰の受賞者が決定しました。

“農地集積・集約化部門”の受賞者は下表のとおりです。

(敬称略)

賞	市町	受賞者名	受賞理由
最優秀賞 (知事賞)	浜松市	三ヶ日町農業協同組合 (みかん等)	平成18年度に農地銀行の取組を開始し、園地の賃借料を公平に決定するため「園地評価基準」を作成するなど、78.2haの円滑な農地集積を実現
優秀賞 (知事賞)	小山町	小山町農業委員会 (水田等)	現場の情報共有や農地利用最適化に特化した部会の新設等、委員会活動の質を向上 また、農作業受託の農地の農地バンクへの切り替え等を推進し42.6haを集積
	牧之原市	静波原基盤整備組合 (茶)	需要に応じた効率的な茶生産を行うため、担い手を中心となって地権者への農地バンク活用を促進し、農地中間管理機構関連農地整備事業により農地の集約を実現(貸借6.56ha→基盤整備後6.4ha)
優良賞 (知事賞)	静岡市	杉山 隆良 (茶、みかん)	経営面積13haのうち7.1haで農地バンクを活用。周辺農家が耕作できなくなった農地を集積する等、地域の中心的経営体として活躍

なお、“耕作放棄地再生部門”は、伊豆オーリーブみらいプロジェクト(最優秀賞)他3者が受賞しました。また、例年開催されている「ふじのくに農地有効活用シンポジウム」は新型コロナウイルス感染症対策のため中止し、表彰式のみ2月5日(金)に静岡県庁で行われる予定です。

農地バンク事業により作業の効率化を進める沼津市西浦の川口卓さん

みかん産地、沼津市西浦で柑橘栽培を行う青年農業士の川口卓さん。大学院修了後、2年間民間企業に就職していましたが、家業・柑橘栽培への思いが強く全国でも屈指のみかん産地三ヶ日での1年間の研修を経て就農しました。現在は、極早生、由良早生、青島温州、寿太郎温州など7品種を2haで栽培しています。



西浦の柑橘園地は傾斜地の小区画が主体ですが、川口さんの持つ園地も間に別の人の園地が挟まっている状態でした。

その園地が手放されるタイミングで農地バンク事業を使って園地を借り受けて集約し、併せてトラックが通れる園内道を整備し作業効率が向上しました。さらに植栽の列を揃えて作業がスムーズにできるようにもしています。

川口さんは、経営理念に「誰もが行きたくなる畑」を掲げ、効率化を進めることで余裕をもって作業を行い、品質の高いみかんを消費者に届けたいと考えています。

農地バンク事業を農業経営士、青年農業士がラジオ番組で紹介しました

農地バンク事業の幅広い年代への周知と活用促進を進めるため、12月8日にラジオ特別番組を放送し、静岡県農業の魅力や農地バンク事業の活用をPRしました。

番組では、農地バンク事業の制度や活用方法等をリスナーに紹介したほか、静岡県の農業の魅力を再発見し、静岡の農業の“元気”を伝えるため、農業経営士、青年農業士の皆さんに出演していただきました。

三ヶ日からみかん農家の後藤貴紀さん、三島から箱根洋ラン園の内藤宗尊さん、そして伊豆からワサビのマルキチの井上千明さんが出演して、コロナウイルス感染症の影響や現在の様子、今後の抱負についてお話をしていただきました。

また、新規就農を目指して焼津のイチゴ農園で研修をしている増田さんと受け入れ先の松田農園の松田肇さんには「がんばる新農業人支援事業」に関するお話をいただき、静岡市葵区山翠園 藤田製茶の藤田匠さんには、ほ場での現場取材で、自然薯の掘取作業の紹介をしていただきました。



自然薯掘取りの取材の様子

さらに、3時間半の放送の序盤からラストまで、県内の若手農家の“青年農業士”12人が、自身の「農業の夢・目標」を語る“シズオカ・アグリドリームス”として東から西へと“夢”をリレーしました。

今回は、静岡県JAグループとのコラボ企画「K-mix Double Eyes 農業特番シリーズ」の第一弾「Vol. 1 シズオカ・アグリフェスティバル2020」として放送し、令和3年2月2日（火）にはJA企画の番組が放送される予定です。

静岡県農業振興公社

検索

静岡県農地バンク（静岡県農業振興公社）がサポートします！

	農地集積課 ☎ 054-250-8989 〒420-0853	静岡市葵区追手町9-18	静岡中央ビル7階
駐在	東部駐在 ☎ 055-924-3993 〒410-0055	沼津市高島本町1-3	東部農林事務所内
	富士駐在 ☎ 0545-65-2261 〒416-0906	富士市本市場441-1	富士農林事務所内
	中部駐在 ☎ 054-283-0650 〒422-8031	静岡市駿河区有明町2-20	中部農林事務所内
	志太榛原駐在 ☎ 054-646-2122 〒426-0075	藤枝市瀬戸新屋362-1	志太榛原農林事務所内
	中遠駐在 ☎ 0538-35-1335 〒438-8558	磐田市見付3599-4	中遠農林事務所内
	西部駐在 ☎ 053-458-7105 〒430-0929	浜松市中区中央1丁目12-1	西部農林事務所内